
**令和2年度 第5回
川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会
議 事 要 旨**

【日 時】 令和3年2月10日（水） 14:00～14:40

【場 所】 川口市役所第一本庁舎6階601会議室

【出席者】

1 委 員

田中委員（会長）、新谷委員、岡本委員、福嶋委員、相澤委員、小川委員、松本委員、永瀧委員、小巻委員、吉田委員、片山委員、森田委員、成川委員、中島委員

2 事務局

藤波部長、須佐次長、小柳補佐、蛭名補佐、神田補佐、市村補佐、金子補佐、片岡補佐、菅野主任

【日 程】

1 開 会

2 議 題

（1）パブリックコメントの結果について

（2）計画（案）について

3 閉 会

【配布資料】

- ・川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会 委員名簿
- ・第5回川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会 席次表
- ・パブリックコメント結果
- ・次期計画案
- ・新旧対照表

[議事要旨]

1 開 会

会長より開会の挨拶が行われた。

2 議 題

(1) パブリックコメントの結果について

【質疑応答・意見】

なし

(2) 計画(案)について

【質疑応答・意見】

(委 員) 60ページ、福祉施設の入所者の地域生活への移行とあるが、どのような形で取り組む予定なのか。

(事務局) 国の基準に基づき算定することとしている。入所者にはそれぞれ相談支援専門員がついており、その人の地域移行の希望を把握(モニタリング)しながら進めている。また、必要な社会資源の検討も行い、必要に応じて対応している。

(委 員) 7ページ、注釈22について、「知能が未発達の状態に留まり」とあるが、表現を「一定程度のIQの水準を下回っている」などの表現にしてはどうか。

(事務局) 見直します。

(委 員) 22ページの短期入所(医療型)は計画値より低く、23ページの医療型児童発達支援は計画値から大きく上回っているが、大人と子どもで何か違いがあるのか。

(事務局) 医療型児童発達支援事業所は市内になく、北区の事業所を利用しており、想定より多かった。短期入所(医療型)は、埼玉の新都心や埼玉医科大など、少し遠いが移送できるところにある。複数日の宿泊想定、冠婚葬祭での利用を見込んでいた。

(委 員) 54ページ、②に「地域での暮らしを支えるため、入所施設などの施設整備」とあるが、入所施設の位置づけをどのように捉えればよいのか。

(事務局) 市では、入所施設を地域生活の一つとして考えている。

(委 員) 91ページ、③の指導監査の適切な実施とは、どのような内容か。

(事務局) 指導監査の頻度として6年間のうち、概ね2回実施する方針としている。

(委 員) 請求に関する監査が多いが、良い実践や処遇については評価していただきたい。

(委 員) 59ページ、「令和元年7月1日、川口市医療的ケア児連絡協議会を設置しました」とあるが、どのような実績があるのか。

(事務局) 協議会を4回実施している。市立医療センターの相談室、済生会、訪問看護ステーション、地域保健センターなどの市で医療的ケアに従事する部門など、教育、福祉、医療の関係者が集まり、議論を進めている。市内の実態を把握するための調査を行っている段階である。

3 閉 会

事務局より、今後の予定について連絡があった。

以 上